http://decfamily.p1.bindsite.jp/2016/

We 13R

No.076　16/09/08

模試を生かす

昨日、初めての模試を返却したが、模試を返却する際には、全体の傾向や各教科の復習法の連絡を兼ねながら、毎回全体集会の形で返却することになる。今回は、どの教科も基本的な問題ばかりだったので、具体的な問に関する言及はなかったが、今後難しい問題（多くの人が間違った問題）や応用が利く問題などがあれば、もう少し具体的に、問題への取り組み方や解放のポイント・テクニックといった点に関する話も出てくると思うので、結果に一喜一憂するだけでなく、３年後を見据えた復習の参考にしてほしい。

＊

今回返却した模試は、毎年１年生が最初に受けている模試で、先輩方が受けた際のデータも長年にわたって蓄積されている。そのデータと比較すると、ほぼ例年通りの結果になっている。大まかな傾向としては、英語・国語はほぼ例年通りで、数学が少し向上したとのことだが、数学に関しては、中間考査で解いた問題と似た問題が出題されていたとのことでもあり、ラッキーだった面もあるのかも知れない。ただ、「一度解いたことのある問題なら、類似の問題は確実に解ける」というのはとても大切なことだから、成果が上がっていると考えてよいだろう。

国語に関して言えば、現代文分野はよく出来ていた。一方、古文・漢文に関しては、まだそれほど授業が進んでいた訳ではないのでなんとも言えないが、どちらも話の内容が捉えやすい内容だったせいか、それなりの結果になっている。とりあえず、文法や書き下し文などの基本的な問題で間違ったところがあれば、しっかり復習をしておこう。

＊

ところで、昨日の話で数学科のＩ先生がおっしゃっていた、「間違えた問題こそが自分の宝」ということは、ぜひ心に留めておこう。進路通信にも書いた通り、模試は「間違ってナンボ」という世界なのであって、イイ点を取ること以上に、間違うという経験をすることが大切なのである。

人は間違いから多くを学ぶものだ。出来なかった問題はもちろんのこと、出来たと思っていたのに「計算間違いをしていた」「単語のつづりを間違えた」「うっかり誤字を書いてしまった」「間違っているのではなく、正しい選択肢を選んでしまっていた」など、自分がどんなうっかりミスをしやすいかを認識して、日常の予習・復習の際にその克服を意識するきっかけにしたいものだ。

問題と解答、解答用紙や結果をファイルしておいて、いざ受験勉強が本格化する際に、解き直しができる準備もしておこう。３年生になってから１年生の問題を解いてみると、「この問題はこういうことだったのか」みたいな、一段高い地点から問題を見直すことができるようになり、それが他の知識と結びついて、理解を深めるきっかけになるものだ。現代文も、今はちんぷんかんぷんでも、これから学習する知識を踏まえて読み直してみると、文章に背後を支える思想が見えてきたりして、読みが深まったり、それを他の文章の読解に結びつけたり出来るようになる。

ということで、とにかく復習が大切。結果だけにとらわれず、それを「未来」にむすびつけられるように活用しよう。